

「飯田市西部山麓観光エリアビジョン」の策定について

1 飯田市西部山麓観光エリアビジョン策定の目的

リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道開通を見据え、飯田市西部山麓エリアに広がる豊かな自然資源や保存活用されてきた文化資源等の貴重な地域資源の現状調査を行い、これらの資源を点から面に広げて効果的に活用し、西部山麓エリアの観光資源を一体的に活用していく方針を示すために観光エリアビジョンとして策定する。

2 飯田市西部山麓観光エリアビジョン策定の背景

令和5年7月に、伊賀良まちづくり協議会、沢城湖一帯の整備検討委員会から「沢城湖一帯の整備ビジョン」として要望事項が市に提出されたことを機に、市では、沢城湖のみならず大平宿や風越山等の豊かな地域資源を一体的にとらえ、西部山麓エリア一帯としての魅力を発信する必要があるとして、令和6年度に西部山麓エリアの特長を調査分析し、その結果を「飯田市西部山麓観光エリアビジョン策定調査報告書」としてまとめた。

その中で、西部山麓エリアには、地域によって守られてきた豊かな自然をはじめとした多様な資源があり、それらが体験活動や交流事業等において活用されるなど、観光による地域づくりの取組として、当市が目指す持続可能な「観光地域づくり」（サステナブルツーリズム）の推進を牽引してきたことも明らかになった。

そこで、関係者、関連団体へのヒアリングをもとにまとめた調査報告の内容を、市内外の方に広く知っていただくためのツールとして、「飯田市西部山麓観光エリアビジョン」としてまとめた。今後、本ビジョンを西部山麓エリアの地域資源の活用の基本的な方針としていく。

3 策定に向けた調査報告書及びビジョン策定の経過

(1) 現状把握

西部山麓エリアの自然環境、眺望、景観、歴史的な背景、立地等の条件から、エリア全体の特徴・将来性を整理した。特に、西部山麓エリアに点在する沢城湖、大平宿、風越山、野底山森林公園等の利用状況や施設整備状況、法規制状況等を、既存資料の整理・関係者からの聞き取り等によりまとめ、現地踏査を行った。

(2) 課題の抽出

現状把握から、旅の目的地となるために障害となる課題点を抽出した。

(3) 目指すべき方向の検討

抽出した課題を踏まえ、西部山麓エリアの目指すべき方向性と施設の整備・改修に関する基本的な考え方をまとめた。

(4) 基本方針（ビジョン）の策定

今後導入すべき機能や整備の方向性、エリア内の連携等を検討して調査報告書を作成。また、その概要をビジョンとしてまとめた。

4 西部山麓観光エリアビジョン策定に伴い、ご協力いただいた関係者、関連団体等

- (1) 沢城湖一帯…伊賀良まちづくり協議会（沢城湖一帯の整備検討委員会）、飯田高原保健休養地管理組合（飯田市保健休養施設 指定管理者）
- (2) 大平宿一帯…大平保存再生協議会、株式会社南信州観光公社（飯田市大平宿生活原体験施設 指定管理者）
- (3) 風越山一帯・野底山森林公園…丸山享保会生産森林組合（丸山）、風越山を愛する会（丸山）、丸山まちづくり委員会（丸山）、羽場曙友会生産森林組合（羽場）、羽場猿庫の泉保存会（羽場）、羽場まちづくり委員会（羽場）、猿庫の泉愛護会（羽場）、飯田市東野財産区管理会（東野）、東野まちづくり委員会（東野）、飯田市上郷野底山財産区（上郷）、上郷地域まちづくり委員会（野底山森林公園 指定管理者）
- (4) 杵原学校・座光寺大門原…山本地域づくり委員会（山本）、座光寺まちづくり委員会（座光寺）

5 西部山麓観光エリアビジョンの共有、活用

地域住民や関連団体によって守り活用されてきた西部山麓エリアに広がる地域資源を「いいだツーリズムビジョン」の考え方をもとに、具体的な整備や活用の基本方針を明文化したのが「西部山麓観光エリアビジョン」である。

令和7年4月以降は、伊賀良まちづくり協議会や大平保存再生協議会等、関連団体との定例会において、本ビジョンの方向性について意見交換を行い共有を図ってきた。

今後、本ビジョンで示す考え方に基づき、西部山麓エリア内の観光施設の整備や活用等を進めていく。

飯田市西部山麓観光エリアビジョン

策定調査報告書

2025(令和7)年2月

公益社団法人 東三河地域研究センター

第1章 はじめに	1
1 業務の目的	
2 業務の内容	
第2章 現状等の把握	2
1 西部山麓エリア全体	
2 座光寺大門原	
3 野底山森林公園（飯田市野底山森林公園）	
4 風越山、猿庫の泉	
5 大平宿（飯田市大平宿生活原体験施設）	
6 沢城湖（飯田市保健休養施設）	
7 杵原学校（飯田市山本都市農村交流促進施設）	
第3章 西部山麓エリア全体及び個別資源別の特長	10
1 西部山麓エリア全体	
2 座光寺大門原	
3 野底山森林公園（飯田市野底山森林公園）	
4 風越山、猿庫の泉	
5 大平宿（飯田市大平宿生活原体験施設）	
6 沢城湖（飯田市保健休養施設）	
7 杵原学校（飯田市山本都市農村交流促進施設）	
第4章 特長を活かした活用の方向性	14
1 西部山麓エリア全体	
2 座光寺大門原	
3 野底山森林公園（飯田市野底山森林公園）	
4 風越山、猿庫の泉	
5 大平宿（飯田市大平宿生活原体験施設）	
6 沢城湖（飯田市保健休養施設）	
7 杵原学校（飯田市山本都市農村交流促進施設）	
第5章 今後の課題等	16
1 西部山麓エリア全体	
2 座光寺大門原	
3 野底山森林公園（飯田市野底山森林公園）	
4 風越山、猿庫の泉	
5 大平宿（飯田市大平宿生活原体験施設）	
6 沢城湖（飯田市保健休養施設）	

7 杣原学校（飯田市山本都市農村交流促進施設）

第6章 今後の課題等への対応	21
1 ビジョンの共有、連携推進	
2 地域資源を活用した持続可能な観光地域づくりの推進	
3 発信力の強化	
4 受入環境等の整備	
参考資料	23

第1章 はじめに

1 業務の目的

本業務は、リニア中央新幹線開業や三遠南信自動車道開通を見据え、飯田市西部の山麓エリアに広がる豊かな自然、雄大な眺めなど貴重な地域資源を見つめ直し、持続可能な観光地域づくりに向けた効果的な活用の方向性を検討、整理した「西部山麓観光エリアビジョン」を策定することを目的とする。

2 業務の内容

(1) 「西部山麓観光エリアビジョン」の策定

飯田市西部（座光寺地区（北）～山本地区（南））の山麓エリアに点在する多様な資源を観光地域づくりへの活用ビジョンを策定する。

具体的には、西部山麓エリア全体及びエリア内に点在する「座光寺大門原」、「野底山森林公園（飯田市野底山森林公園）」、「風越山、猿庫の泉」、「大平宿（飯田市大平宿生活原体験施設）」、「沢城湖（飯田市保健休養施設）」、「杵原学校（飯田市山本都市農村交流促進施設）」（以下、「個別資源」という。）ごとに、自然環境、景観、眺望、背景、立地、施設利用や整備状況等の現状等について、資料や関係者ヒアリング等を実施し把握するとともに、特長を活かした活用の方向性、問題、課題等を抽出し、当面の対応等を取りまとめ、西部山麓エリア全体の観光活用の方向性を整理し示す。

(2) 「西部山麓観光エリアビジョン」策定調査報告書の作成

業務成果を報告書形式で作成する。

中間時に中間報告するとともに、業務完了時は調査報告書として整理し提出する。

中間報告は、主に現状等の把握、特長の抽出等の概要とし、その後、活用の方向性を協議、確認を重ねながら、最終的に調査報告書を作成する。

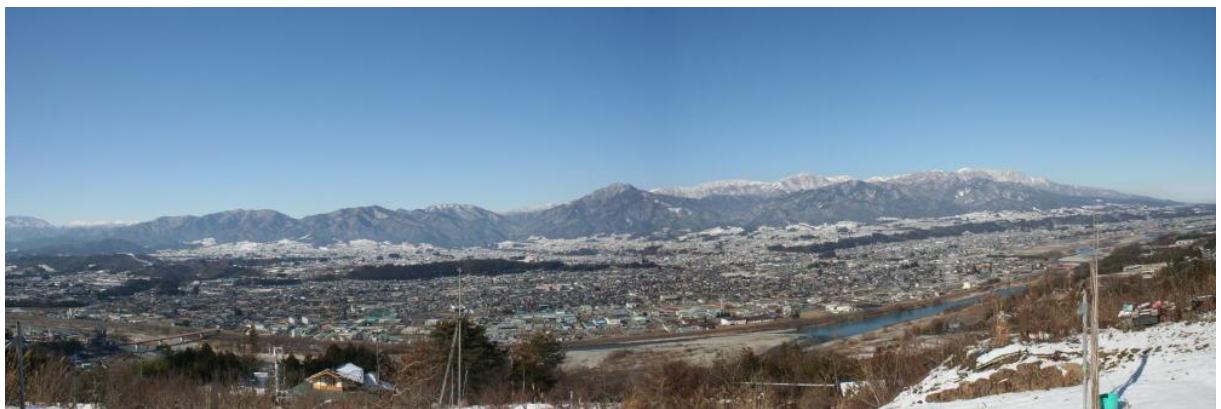
報告、提出時期は以下のとおり。

- ① 中間報告 令和6年9月末頃を目途
- ② 調査報告書 令和7年2月28日まで

第2章 現状等の把握

1 西部山麓エリア全体

- ・西部山麓エリアは、飯田市西部地域の座光寺地区から山本地区に及ぶ山麓沿いの高台に位置するエリアで、エリア内の多くの箇所から南アルプス、伊那山地、河岸段丘、天竜川、市街地等の雄大なパノラマ展望が眺望できる。
- ・エリア内における代表的な資源では、座光寺大門原、野底山森林公園、風越山、猿庫の泉、大平宿、沢城湖、杵原学校等が点在し、各個別資源を地域、保存・保護・愛護を目的に活動する関係団体主体で大切に守られ、地域づくり等にも活用されている。
- ・各個別資源では、自然との触れ合い、自然観察、農業体験、木工体験、キャンプ、ウォーターアクティビティ、登山、トレッキング、ウォーキング、サイクリング等の自然体験が可能である。
- ・信濃路自然歩道、Japan Alps Cycling Road (ジャパン・アルプス・サイクルロード)、西部山麓農免農道が横断し各個別資源を連結している。
- ・エリアを横断する西部山麓農免農道沿い等には、農畜産物直売所、観光農園、乗馬施設、宿泊施設、温泉入浴施設、飲食店・カフェ等の観光に活用できる民間施設が点在している。



天竜川左岸（下久堅地区）より西部山麓方面（風越山、中央アルプス方面）を望む

2 座光寺大門原

- ・「座光寺大門原」は、座光寺地区の中で最上段部（標高約 650m）にあたる高台で、南アルプス、伊那山地が見渡せる農地が広がっている。
- ・座光寺スマートインターチェンジ間近、市街地から約 4.5 km (車 10 分)、リニア長

野県駅から約3km（車5分）の距離に位置している。

- ・地域の主要産業である「農業」を活かした地域活性化を目指し「パノラマファーム大門」を自治会組織内に立上げ（2014（平26）年）、耕作できなくなった農地の開拓、りんごやそばの栽培、渋谷区、奈良市青少年野外活動センター等の都市との交流事業に取り組まれている。
- ・子どもが自然に親しむ、自然観察ができる渡り蝶の飛び交う「アサギマダラの里」づくりとして、蝶の食草であるフジバカマの植樹、管理活動の他、都市交流する渋谷区等で収穫したりんごで醸造したシードル「THE・COZY（ザ・コーボー）」の製造、販売を展開している。



渋谷りんごパーク（座光寺大門原）



座光寺大門原からの眺望（南アルプス）

3 野底山森林公園（飯田市野底山森林公園）

- ・「野底山森林公園」は、市街地の北方の野底川流域（標高約650～900m）の地帯にアカマツ、スギ、ヒノキや広葉樹が混在する森林に囲まれた自然公園である。
- ・座光寺スマートインターチェンジ、市街地から約4km（車10分）、リニア長野県駅から約6km（車12分）の距離に位置している。
- ・春は桜やツツジが、夏は木々の新緑が、秋は鮮やかな紅葉など四季を通じて来訪者を楽しませている。（上郷地域まちづくり委員会が指定管理者として管理）
- ・公園の奥にある野底山池の平にある池は、モリアオガエルの繁殖地として県天然記念物に指定されている。（※通常、池の平まで立入ることはできないが、八王子神社の脇の池で卵塊を見られることがある。）
- ・園内には、旧中学校木造校舎を移築した姫宮林間学校をはじめ、姫宮憩いの家、ログハウス、キャンプ場、多目的テント、屋外炊事場、木工作業棟、管理棟、多目的グラウンド、林間広場、マレットゴルフ場、自然歩道が整備され野外活動に利用できる施設が充実している。
- ・野底川に設置された小水力発電所が稼働（2023（令5）年）を始め環境学習にも活かされている。

- ・近年、飯田の食文化として注目される飯田焼肉と野外音楽イベントを組み合わせた「焼来肉ロックフェス」の会場として市内外から約5千人の来場者が訪れるとともに、イベントを通して全国に発信されている。
- ・直近の利用者数は以下表のとおりとなっている。コロナ禍以降、キャンプ場の新設や拡充、野外アクティビティを充実させた施設が増えており、従来型キャンプ場の当該施設は利用者は頭打ちの状態となっている。

	R 3年	R 4年	R 5年
施設利用者数(人)	9,280	15,018	20,338
一般行楽客数(人)※推計	25,804	33,880	35,849
来園者数(人)	35,084	48,898	56,187



野底山森林公園



焼来肉ロックフェス

4 風越山、猿庫の泉

(1) 風越山

- ・「風越山（標高 1535m）」は飯田市を象徴する市民の誰もが知っている山として「かざこしやま」、「ふうえつざん」と呼ばれ親しまれ、信州百名山にも選定されている。
- ・山頂直下には国重要文化財指定の「白山社奥宮」が鎮座し、古くから信仰の山として崇められ白山権現を祀っていることから、「権現山（ごんげんやま）」とも呼ばれている。
- ・市街地から登山口までは約3km（車10分）で、小学生の子どもでも山頂まで約3時間（下山は約2時間）で登ることが可能で、四季折々の姿を見せる日帰り登山スポットとして市民等を中心に楽しめている。（※登山ルートは6ルート、登山口周辺に駐車場あり）
- ・道中では市街地、南アルプス、伊那山地等の山々の絶景が望めるビューポイント、展望台や水場があり疲れを癒すスポットがある。
- ・毎年10月、登山道を使った「風越山トレイルマラソン」が開催され、郷土の山を愛

する健康イベントとして定着している。一番距離のある白山社コース（12.4 km）では、標高差が約1000mもあり、一部マニアからタフなコースとして有名である。



風越山



登山道からの眺望（東向き）

（2）猿庫の泉

- ・「猿庫の泉」は、飯田市の北西にそびえる風越山山麓天竜川水系円悟沢に湧出する名水で、環境省名水百選に選定（1985（昭60）年）されている。
- ・市街地から約4km（車10分）、飯田インターチェンジから約6km（車15分）の距離にある。
- ・現地は森に囲まれた緑陰で、ほどよく冷えた名水の湧出、周囲の景観と調和した四阿、茶室が設置されている。
- ・伝承によれば江戸時代後期、茶道宗偏流不藏龍溪が茶の湯にふさわしい水を求めて諸国を訪ねるなか、天竜川の水の旨さに惹かれ上流をたどって苦労の末に探し当てたとされ、5～10月までの毎日曜日は「猿庫の泉保存会」が主催する野点によるおもてなしが行われている。
- ・地元酒造会社の日本酒づくり、和菓子店舗の菓子づくりにも使われているなど県内外から名水を汲み来られており、リピーターも多く愛飲されている。



猿庫の泉



野点の様子

5 大平宿（飯田市大平宿生活原体験施設）

- ・「大平宿」は、江戸時代より飯田と木曽を結ぶ大平街道の峠の宿場（標高 1150m）として発展してきたが、交通ルートやエネルギー需要の変化などで 1970 年（昭 45）に住民の総意として集団移住を決定し村としての歴史を閉じた。
- ・間もなく飯田市の上水道取入口付近の別荘地分譲を契機に大平宿の集落保存活動が始まり、全国からの支援者、利用者等が活用することによって集落全体が保存されてきている。
- ・飯田市街地、南木曽町のどちらからも約 20 km（車 40 分）の距離で、冬季（12～4 月上旬）は大平街道の閉鎖に伴い現地には行くことができない。
- ・現在も市に寄付された建物や民有の建物を含め 15 軒ほどの家屋が当時に近い形で残されており、市有建物は生活原体験施設として宿泊体験ができる。（株）南信州観光公社が指定管理者として管理）
- ・個人事業者による古民家体験も行われ、国内外から利用者が訪れ評価されており、その様子が SNS 等により広く発信されている。
- ・直近の利用者数は以下表のとおりとなっている。利用期間は大平街道冬季閉鎖期間を除く 4 月中旬～11 月頃までで、令和 5 年度は 1,200 人超の利用者があり、コロナ禍前（令和元年度実績 1,486 人）に回復しつつあり、個人利用が 7 割を占めている。

	R 3 年	R 4 年	R 5 年
生活原体験施設利用延人数(人)	181	665	1,208
うち体験教育旅行延人数(人)	0	79	356
[団体数]	[0]	[2]	[2]
生活原体験施設個人利用割合(%)	100	88	71
生活原体験施設稼働日数(日)	28	56	74

- ・「大平宿」を含む大平高原は、ハイキングでの利用や摺古木山、安平路山への登山口としても機能している。登山口からの標高差は約 1200m で、途中藪漕ぎがあるなど難易度が高く上級者向けである。



集落の様子



大平峠県民の森



家屋の様子

6 沢城湖（飯田市保健休養施設）

- ・「沢城湖」は、温水ため池として築造（1964（昭39）年）された人工湖（堤長147m・堤高9m）で、湖を活かした釣りやボートなどのウォーターアクティビティや明るく開放的な湖畔・森の中でのキャンプの他、地形を活かしたハイキング、マウンテンバイク等の野外活動を楽しむことができる。
- ・「沢城湖」を中心に、レストハウス、キャンプ場、公衆トイレ等が設置されている。
(飯田高原保健休養地管理組合が指定管理者として管理)
- ・市街地から約10km（車20分）、飯田インターチェンジから約5km（車10分）の距離に位置している。
- ・高台にある展望台からは、南アルプス、伊那山地をバックに段丘上の市街地を見渡すことができる。
- ・直近の利用者数は以下表のとおりとなっている。利用期間は寒冷期・降雪期の関係で、4～11月頃までが中心で、キャンプ利用が年平均約740人（3.1人/日）、レストハウス利用が年平均約600人（2.5人/日）、釣りが年平均約1,050人（4.4人/日）、マウンテンバイク年平均約520人（2.2人/日）となっている。なお、マウンテンバイクは体験教育旅行受入によるもので令和4年度から始めている。
- ・コロナ禍以降、キャンプ場の新設や拡充、野外アクティビティを充実させた施設が増えており、従来型キャンプ場の当該施設は利用者が減ってきてている。

	キャンプ (人)	レストハウス (人)	ウォーターアクティビティ		マウンテンバイク (人)
			ボート(人)	釣り(人)	
R3年	958	—	341	1,855	—
R4年	947	421	—	628	600
R5年	315	764	—	668	437

- ・「沢城湖」近辺には、カタクリの群生地「かたくりの里」（大瀬木区）、高台の桜の名所「佐倉様（佐倉神社）」（北方区）、伊賀良地区を象徴する「笠松山」などの観

光資源がまとまっており、地元ではこの資源を連続させた周遊観光へ利活用する構想を持っている。



沢城湖



展望台からの眺望

7 杣原学校（飯田市山本都市農村交流促進施設）

- ・「杵原学校」は、1949（昭24）年に山本中学校として建築された木造校舎で、地元では村民の多大なる協力を得て建設が進められた手作りの学校であったと伝わる。
- ・2005（平17）年に、全国の新制中学校校舎では初めてとなる国登録有形文化財に登録されている。（山本地域づくり委員会が指定管理者として管理）
- ・飯田山本インターから約2km（車3分）、市街地から約10km（車20分）、南信州を代表する温泉地「昼神温泉郷」から約7km（車10分）の距離に位置している。
- ・閉校後、木造校舎はしばらく手付かずの状態にあったが、2004（平16）年に地元自治会を中心に杵原広場整備検討委員会を立上げ検討を開始し、杵原広場整備に関する提案として「再び学びの場として活用する」ことを飯田市へ提示している。
- ・2005（平17）年に「杵原学校応援団」（60人）が結成され、地域の子どもを集めての子ども教室や、大人のための大人の座学などの講座、農業体験などの体験教育旅行の受入れも行われ、地域内外の交流と学びの拠点としての活動が始まった。
- ・2009（平21）年には木造校舎の大規模改修、多目的ホール（旧体育館）が完成し、さらに観光・交流活動の幅を広げ地域主体により取り組まれている。
- ・近年は木造校舎前に成長する「大枝垂れ桜」を求め、特に春は多くの来訪者、カメラマンが訪れるとともに、映画やコマーシャルのロケ地ともなっており全国から多くの来訪者がある。
- ・2011（平23）年より「杵原学校フォトコンテスト」を、2013（平25）年より杵原学校の見学・案内を行っている。
- ・直近の利用者数は以下表のとおりとなっており、大型バス駐車場を完備し、県内外から木造校舎見学や模擬授業体験に小中学生が訪れている。
- ・コロナ禍の影響もあり、一時はバスを利用した学校の社会科見学の受入が落ち込んだ

が、コロナ禍以降は着実に回復している。

	来校者数			バス受入台数 (台)	開校日数 (日)
	県内(人)	県外(人)	計(人)		
R 3年	7,593	781	8,374	31	28
R 4年	9,265	4,077	13,342	177	112
R 5年	9,638	4,566	14,204	209	132

・「杵原学校」からほど近い西部山麓線（市道）沿線の七久里神社で行われる「秋季祭典・裸まつり」（9月下旬～10月上旬）は地元7つの集落（平）から若者が選ばれ、腰に大きなしめ縄を巻き、手には重さ約15～20キロの大きな桶を持ち、頭上で振りながら三国煙火の火の粉の下で舞う奉納祭りで、地元をはじめ県内外から多くの来訪者、カメラマンで賑わう。



杵原学校全景



校舎前大枝垂れ桜



廊下



教室

第3章 西部山麓エリア全体及び個別資源別の特長

1 西部山麓エリア全体

- ・豊かな自然をはじめ多様な資源が、地域・関係団体主体により大切に守られ、観光、交流を目的とした地域づくりの取組が進められている。（各地区基本構想、基本計画等に位置付けられている。）
- ・南アルプス、伊那山地、河岸段丘（天竜川）、市街地等のパノラマ展望が眺望できる。
- ・山間地、山麓部でありながら、街場や主要な交通拠点のほど近くに位置する。（※アクセス、緊急時対応、医療機関・店舗等の利便性が良い）
- ・エリア一帯には観光活用ができる民間施設が点在している。
- ・エリア内を「信濃路自然歩道（※1）」、「長野県一周サイクリング・Japan Alps Cycling Road（※2）」、「西部山麓農免農道（※3）」が横断し、エリア内にある様々な地域資源を連結している。

（※1）信濃路自然歩道

- ・1980（昭50）年頃に長野県が松川高原（松川町）から飯田市を経由し園原を結ぶ区間、約80kmのトレイルコースを整備し、1988（昭58）年に飯田市、阿智村、南信州広域連合へ移管された。
- ・飯田市内の区間は、高鳥屋山付近から、猿庫の泉、鳩打峠、八王子公園（野底山森林公園）付近を通過する。コース途中には案内標識が設置され、ビューポイントで南アルプス、伊那山地等の眺望を楽しむことができる。

（※2）長野県一周サイクリング Japan Alps Cycling Road

- ・長野県が既存道路を活用して設定した長野県を反時計回りで一周するサイクリロードで、長野県を代表する観光地をはじめ、3つのアルプスを自転車で巡る、一周延長820km、獲得標高12,000mのダイナミックなルートである。
- ・飯田市内は、阿智村から西部山麓農免農道（市道）、大平街道を走破し南木曽町へ抜けるルートで、沿線には七久里神社（山本）、かたくりの里（大瀬木）、佐倉神社（北方）、妙琴公園（切石）、猿庫の泉（羽場）、大平宿（大平高原）を通過する。

（※3）西部山麓農免農道

- ・飯田市西部の山麓を沿うように整備された市道で、北は妙琴公園付近から南は飯田山本インターチェンジ付近へ通じている。

2 座光寺大門原

- ・座光寺スマートインターチェンジ間近、市街地からほど近く主要な交通拠点、街場からのアクセスが良い。
- ・桃、なし、りんご、柿などを栽培する優良な果樹園地帯が広がっている。また、専業農家や農業を営む世帯が市内では相対的に多い。
- ・座光寺地区の象徴である「座光寺富士」の麓で、農地・果樹園の中から南アルプス、伊那山地のパノラマ展望が眺望できる。
- ・渋谷区をはじめ都市との交流事業に、積極的に取り組んでいる。
- ・新たな魅力の創出の取組として、アサギマダラ蝶の観察会、農園内での飯田焼肉体験（タレづくり、焼肉）など実践している。
- ・近接する日帰り温泉・宿泊施設（高森町）等との連係した体験プログラムなど発展性がある。

3 野底山森林公园（飯田市野底山森林公园）

- ・座光寺スマートインターチェンジ、市街地からほど近く、主要な交通拠点、街場からのアクセスが良い。（食材等の購入がしやすい、緊急時の迅速な対応が可能）
- ・野底山の豊かな森林環境や野底川の水辺に近いキャンプ場、旧中学校木造校舎を移築した屋内集団活動施設、多目的グランド・広場、木工作業棟等の施設が充実している。（※多様な学習活動・体験活動への対応が可能）
- ・小水力発電の仕組み、環境への意識を高める、電気の大切さを身近に感じて学ぶことができる。（※学校活動への対応が可能）
- ・周辺には、スポーツ施設（山田グランド、山田体育館）が設置されている。
- ・地元地域主体による「さくら祭り、もみじ祭り」、実行委員会主体による「焼来肉ロックフェス」など、誘客イベントへの活用、実績がある。

4 風越山、猿庫の泉

（1）風越山

- ・山頂付近には国指定重要文化財「白山社奥社本殿」があるなど、登山道の道中含め室町時代からの歴史を物語る貴重な場所である。
- ・登山道の道中から南アルプス、伊那山地、河岸段丘、市街地のパノラマ展望の眺望を楽しむことができる。
- ・地元保全団体により登山道、案内板の管理、登山道地図が整備され、多くの市民等に親しまれている。

(2) 猿庫の泉

- ・市街地、住宅地の近くでありながら住宅街が視界に入らずの雑踏感を感じさせない空間を形成している。
- ・「猿庫の泉」という名水百選に選定された名水が湧水し、県内外から名水を汲みに来られている。
- ・昔から茶の湯に適することで広く知られ、ちなんだ伝承されている話が今も語り継がれ、地元保存会、愛護会による環境整備、「野点」によるおもてなし定期的に行われている。

5 大平宿（飯田市大平宿生活原体験施設）

- ・江戸時代から続いた宿場町当時の建物群、山村の原風景がほぼ当時のまま残存している。
- ・単なる廃村ではなく、広く解放され一般利用できる廃村で、かまどや囲炉裏を使用した現代生活を送る中で失われてきた山間の暮らしの体験は極めて希少で価値が高い。
- ・市民、所有者その他、全国の支援者、利用者等によって集落全体を活用することで保存されている、歴史を物語る極めて貴重な場所である。

6 沢城湖（飯田市保健休養施設）

- ・飯田インターチェンジ、市街地からほど近く、主要な交通拠点、街場からのアクセスが良い。（食材等の購入がしやすい、緊急時の迅速な対応が可能）
- ・レイクサイドのキャンプ場、湖畔沿いの遊歩道をはじめ、釣りやボート等の湖面を活用したウォーターアクティビティを行うことができるほか、かつてテニスやバレーボールに利用されていた平地がある。
- ・近くの高台には展望台があり、南アルプス、伊那山地、河岸段丘上の市街地のパノラマ展望が眺望できる。
- ・地域主体による「沢城湖一帯の整備ビジョン」が策定され、将来構想の実現を目指す地域を挙げた取組による魅力的な場づくりが進められている。

7 杣原学校（飯田市山本都市農村交流促進施設）

- ・山本地域づくり委員会、杣原学校応援団を中心とした地域主体による国登録有形文化財の木造校舎の活用を通じた保存継承に取り組まれている。

- ・木造校舎と隣接する多目的ホールを活用して、様々な体験や地域の歴史文化の継承などの学びの広場づくり、大人同士の交流や学びあう場所づくり、地域活性化のための様々な活動、外部からの体験学習受入れによる交流事業を行っている。
- ・木造校舎と大枝垂れ桜が映画やコマーシャルのロケ地になっており、フォルムコミュニケーション、聖地巡礼への活用に期待できる。

第4章 特長を活かした活用の方向性

1 西部山麓エリア全体

- ・豊かな自然をはじめ、絶景のパノラマ展望（南アルプス、伊那山地、天竜川、市街地等）の眺望を活かしながら、地域・関係団体主体による多様な資源を活用した持続可能な観光地域づくり、サステナブル・ツーリズム、レスポンシブル・ツーリズムを推進する。
- ・西部山麓エリアを構成する多様な資源の連係、連携により、エリア全体の魅力を向上が見込みるとともに、多様化する旅の目的に対応できるようにしていく。
- ・民間事業者による個別資源の活用も始まっており、効果的に連携協力していく。

2 座光寺大門原

- ・都市部との交流を継続していくとともに、農村で農業、文化、生活が楽しめる、体験ができる観光の仕組みをつくり推進する。
- ・このことにより、地域の主要な産業である「農業」が持続していく、優良な農地の遊休地化の進行の抑制につなげる。

3 野底山森林公園（飯田市野底山森林公園）

- ・既存施設で学習活動、野外活動、体験活動に利用できるように適切な維持管理を継続していくとともに、健康・観光・教育等の様々な分野で森林空間を活用した体験プログラムや屋外イベントの場が提供できるように、個人から団体、野外イベントなどを幅広く受け入れられるようにしていく。

4 風越山、猿庫の泉

（1）風越山

- ・飯田市を象徴するふるさとの山として、いつでも・だれでも、日帰りで、思い思いに登ることができる「風越山」、「虚空蔵山」として活用していく。
- ・登山道等の維持・管理活動の輪を広げ継続していくことで、市民をはじめ活動への参加者がやり甲斐が感じられ「風越山」への誇りと愛着を高めるとともに、市民・地域、関係者が役割分担の基、登山イベント企画やマップの更新、情報発信などの活動が継続していくようにする。

(2) 猿庫の泉

- ・「猿庫の泉」は、市民が湧水を通して自然に触れる、憩いの場として、日本の名水百選としての価値を活かし、地域内外の人とのコミュニケーション、交流の場としてこれまで通りに活用していく。
- ・来訪者への「野点」によるおもてなしをはじめ、周辺環境の整備の輪を広げ継続していくことで、市民をはじめ活動への参加者がやり甲斐が感じられ「猿庫の泉」への誇りと愛着を高めるとともに、「野点」や整備・清掃などの活動が継続していくようになる。

5 大平宿（飯田市大平宿生活原体験施設）

- ・手つかずの自然、山村の原風景の中で、宿場町当時の建物（家屋）での生活原体験の観光活用によって、当地域に実在した山村の自然や歴史文化、暮らしぶりに理解を深めるとともに、引き続き、市民、所有者をはじめ、施設利用者や全国の支援者等と連携・協力して集落の保存継承につなげていく。
- ・「大平宿」の規模、立地、周辺環境、利用者の安全確保等を考慮し、学校行事や集団活動での施設利用は控え、個人・小グループをターゲットの中心とし、体験の希少性、価値を高める、自然や環境等への負荷の抑制にもつなげていく。
- ・民間事業者による家屋を活用した古民家体験も始まっており、民間事業者による事業展開などへの発展性を考えていく。

6 沢城湖（飯田市保健休養施設）

- ・「沢城湖」築造後に周辺の別荘開発された1974（昭49）年以降は、市民・別荘地住民を中心とした保養地・憩いの場であったように、地域主体により策定された「沢城湖一帯の整備ビジョン」をベースに役割分担の下、受入環境を整え、西部山麓エリア唯一の湖、明るく開放的な湖畔を有効に活用したアクティビティが再び体験できるようしていく。
- ・「沢城湖」の程近くには、カタクリの群生地「かたくりの里」、桜の花見スポット「佐倉さま（佐倉神社）」、観光農園、乗馬施設などの観光スポットが連携した周遊観光を促す。

7 枢原学校（飯田市山本都市農村交流促進施設）

- ・山本地区が木造校舎の整備・活用として取りまとめた「再び学びの場として活用する」を第一とし、これまでの取組を継続していく。
- ・国登録有形文化財として、映画やコマーシャルのロケ地としての魅力を地域内外へ発信するとともに、さらなる活用方法を考えていく。

第5章 今後の課題等

1 西部山麓エリア全体

- ・南アルプス、伊那山地、河岸段丘（天竜川）、市街地等の雄大なパノラマ展望が眺望できる場所をあまり知られていない。
- ・各個別資源をつなぐ遊歩道（トレイルコース）、道路等は存在しているが、個別資源相互連携した取組、活用ができていない。
- ・個別資源別に地域・関係団体等が存在し様々な取組が行われているが、連携調整できる場が無い。
- ・観光活用の取組を推進する地域、関係団体等の体制を強化する外部人材の育成・確保や、取組をサポートする仕組みづくりが求められている。
- ・多様な資源を活用した体験プログラム等の観光コンテンツの開発、エリア全体を信濃路自然歩道等で周遊できる仕組みづくりが求められている。
- ・個別資源に整備・設置されている施設・設備等の老朽化が進行している。また、利用者等にとって使い難い古い仕様の施設等が多く更新が必要になっている。
- ・個別資源を観光活用していく上で魅力的な民間施設（農畜産物直売所、観光農園、乗馬施設、宿泊施設、温泉入浴施設、飲食店・カフェ等）が点在しているが、連携など効果的に活用できていない。
- ・エリア全体の価値や魅力を様々な媒体を活用した情報発信。問い合わせや予約受付に、ワンストップで対応ができる窓口（Web サイト等）の構築が必要になっている。
- ・エリア全体を表す名称（ネーミング）を付け、市民、関係者が愛着や誇りを持てるようにできると良い。

2 座光寺大門原

- ・優良農地でありながら後継者不足等を理由に耕作ができなくなってしまった遊休農地が増えている。
- ・「パノラマファーム大門」の活動を地域内外に広げ、担い手を募り、遊休農地活用や都市交流事業が継続できるようする体制づくりの必要がある。
- ・観光・体験型農業を行う農業者が少ない。農業を観光資源に活かしきれず、観光客の受入体制、トイレ・水道、休憩施設等の便益施設が整っていない。
- ・座光寺地区は観光資源が地区下段部に集中し上段部に乏しい。西部山麓エリア（南信州圏域西側上段部）一帯の観光資源が連係することで新たな魅力の創出につながる。
- ・座光寺地区に隣接する高森町に整備されている「ハーモニック道路」にアクセスする

道路が整備されることでサイクリングやトレッキングへの活用が可能になるとともに、高森町内にある温泉入浴施設、宿泊施設との連携が可能になり魅力が高まる。

3 野底山森林公園（飯田市野底山森林公園）

- ・林間学校（木造校舎）をはじめ施設全般の老朽化、トイレが和式・汲取り式で、利用者から安全性の確保、利便性向上を求められている。
- ・敷地が広く、樹木管理や草刈りなどの維持管理の負担が大きく指定管理者、地域だけでは対応が難しくなっている。最近は、クマ・ヘビ・ハチなど野生動物、害虫への対応も必要になっている。
- ・様々な体験プログラムを検討しているが、スタッフの確保が難しくなっている。
- ・施設管理、運営スタッフは定期的に交代するため、継続した取組、ノウハウの引継ぎが難しく、プロパー人材を確保・育成していく必要がある。
- ・施設利用者が事前に情報収集できるように、Webサイトの施設等情報の充実、最新情報の掲載が重要になっている。

4 風越山、猿庫の泉

- ・「風越山」登山道沿線、「猿庫の泉」周辺とも樹木が成長・繁茂し、眺望へ支障があるとともに、倒木や枝折れが発生した痕跡があり、来訪者・関係者の安全性・眺望を確保する環境整備の必要がある。
- ・登山者や来訪者を安全に誘導する案内看板や地図（紙・電子媒体）、名所や見所を価値や魅力を伝える解説看板の更新時期が過ぎている。（※外国語表記含め）
- ・保存・保全活動、整備活動に参加する担い手の不足、現会員の高齢化に伴い推進体制が弱まっている。地域、関係団体と連携した担い手の確保・育成、活動費、整備費等に充当する財源の確保が必要になっている。
- ・「猿庫の泉保存会」による野点のおもてなしは来訪者に好評をいただいているが、市内外に広く知られていない。
- ・「猿庫の泉」周囲は日陰の湧水地のため湿気が高く、茶室内の天井や壁にシミやカビが発生し対策が難しい。
- ・近年、クマ等の出没、目撃情報により野点の実施できないケースが発生している。

5 大平宿（飯田市大平宿生活原体験施設）

- ・全ての市有建物（家屋）について経年劣化が進行し、積雪・倒木等により度々破損が発生している。改修や修繕の他、支障木伐採・枝払いが必要になっているが、財源の確保が難しい状況にある。（※私有建物で管理ができず放置された危険な建物がある。）
- ・水道施設の老朽化への対応、公衆トイレ（和式・汲取り）の改善が求められている。
- ・家屋、設備等の整備あたっては、整備の方向性、優先順位を明確にし、対応していく必要がある。
- ・利用者等の体調の急変、大きなケガ、建物等の火災など、緊急車両の到着、医療機関までの搬送に時間をする。
- ・手つかずの自然に囲まれた希少な環境である一方、人里から離れ、川に近く、樹木で見通しが悪いため、小さなお子さん連れや学校行事、集団活動での安全確保は難しい。
- ・生活原体験に宿泊が含まれる場合には関係法令への対応を確認する必要がある。
- ・生活原体験施設及び周辺一帯の管理体制について現管理者の高齢化、後継者不足の状況で、新たな人材の確保・育成を急ぐ必要がある。

6 沢城湖（飯田市保健休養施設）

- ・全般的に施設利用者が減少し固定化してきている。
- ・伊賀良地区では、「沢城湖」に市民等が集い憩う広く利活用していただけるかつての姿の復活を目指し「沢城湖一帯の整備ビジョン」を策定（2023（令5）年）した。実現に向けた地域の取組に対し市の支援を要望されている。
- ・「沢城湖」一帯の多様な資源を活用した地域主体の取組を支援するとともに、各資源の活用が連係することで、また外部人材の導入、地域内外との交流事業によってさらに盛り上げていく取組につなげていく必要がある。
- ・広い敷地に公衆トイレが1箇所（和式・汲取り式）のみであり、利用者等から利便性向上（洋式・水洗化）が求められている。
- ・かつてテニスやバレーボールに利用されていた平地に不陸が発生している。土を入れるなど再整備することで、見通しの良い屋外レクレーションに対応可能で、野外活動、遊びの幅が広がり新たな魅力の創出に期待ができる。
- ・「沢城湖」を活用した持続可能な観光を展開するため、湖の水質が悪くしないように、流入する水路の補修、炊事場への浄化槽設置を検討していく必要がある。
- ・展望台からの眺望、利用者の安全を確保するため、支障のある樹木伐採、払いを計画的に実施する必要がある。

7 枢原学校（飯田市山本都市農村交流促進施設）

- ・「枢原学校応援団」の活動を支える担い手の高齢化、人材が不足しているため、活動の縮小、継続が懸念される。
- ・施設の維持管理を担当する人材の高齢化、後継者が見つからず苦労している。
- ・木造校舎の経年劣化で外壁等の改修が必要になっているが、財源確保が難しい状況にある。
- ・木造校舎周囲の植栽が成長・繁茂し管理が追いつかず、景観が悪くなっている。

第6章 今後の課題等への対応

第5章で示した今後の課題等について、当面する対応を以下に整理する。

1 ビジョンの共有、連携・協働

本ビジョンの推進にあたっては、市民、地域、関係団体、事業者、行政等が共有・認識し、取組事項の確認と役割分担の下、連携・協働して取り組む。

2 地域資源を活用した持続可能な観光地域づくりの推進

「田舎へ還ろう戦略」、「いいだツーリズムビジョン」を踏まえ、エリア内の個別資源を活用した、地域の人・生活・文化などに触れられ飯田らしさの体験ができる観光コンテンツの開発、推進人材、受け皿となる地域プレイヤーの確保・育成、民間事業者との連携・活用する。

合わせて、地方の地域づくりに関心を持ち、関わることで自己有用感や自己実現を求める若者や、地域を気に入つて頻繁に訪れ、地域活動を応援してくれる「関係人口」の創出、拡大につなげられる「観光地域づくり（サステナブル・ツーリズム）」に取り組む。

3 発信力の強化

エリア内の個別資源が持つ価値や魅力を市民や来訪者が知って、関心をもつていただくことで保存継承や活用につなげられるように、これまで取り組んできた発信方法の実績を踏まえ、さらに効果的な方法により発信する。

また、個別資源を活用した飯田らしさが体験できる観光コンテンツは、包括連携協定を締結するエアビーアンドビーが展開するプラットフォームと連携した発信の研究、南信州観光公社が取り組む「世界の持続可能な観光地TOP100選」（国際認証団体グリーン・ディスティネーションズ）の認定に向けた取組を支援する。

4 受入環境等の整備

エリア内の個別資源に整備・設置された既存施設・設備については、「公共施設等総合管理計画（長寿命化計画）」を策定（令和7～8年度）することにより、有利な財源を活用して計画的に実施する。

なお、整備にあたっては、詳しい現状調査等が必要になることから調査研究等を行

い、その結果を踏まえ着手する。

利用者等の安全確保に必要な整備等は、重要度や緊急性等を鑑みて優先度を判断し計画的に実施する。

参考資料

ヒアリング実施者

西部山麓エリアの個別資源に係わる団体の代表者、事務局担当者等に対し、ヒアリング調査を実施した。ヒアリング実施者は下表のとおり。ヒアリング記録の詳細は別冊で添付する。

No	個別資源	ヒアリング対象者	ヒアリング実施日
①	大平宿	株式会社南信州観光公社 代表取締役 高橋充 氏 施設管理者 広瀬秀一 氏	令和6年8月22日
②	沢城湖	伊賀良まちづくり協議会 会長 上沼和則 氏 副会長 仲田克史 氏 飯田高原保健休養地管理組合 組合長 小池真文 氏 沢城湖周辺一帯の整備検討委員会 委員長 宮下博 氏	令和6年8月22日
③	杵原学校	山本自治振興センター 所長 松江良文 氏	令和6年9月4日
④	風越山	風越山を愛する会 会長 大蔵隆 氏	令和6年9月4日
⑤		丸山享保会生産森林組合 組合長 嶽野 氏	令和6年9月6日
⑥	猿庫の泉	羽場まちづくり委員会 会長 代田康弘 氏 他 猿庫の泉保存会 会長 林憲世 氏 他 猿庫の泉愛護会 会長代行 矢沢 氏 他	令和6年9月10日
⑦	野底山森林公園	飯田市林務課 課長補佐 西永俊充 氏	令和6年9月12日
⑧		上郷自治振興センター 所長 熊谷徳昭 氏	令和6年9月13日
⑨	南信州地域	株式会社南信州観光公社 代表取締役 高橋充 氏	令和6年11月14日
⑩	座光寺大門原	座光寺地区自治振興センター 所長 松村和弘 氏	令和6年11月14日

01 大平宿

- 「大平宿」は、江戸時代より飯田と木曽を結ぶ大平街道の峠の宿場（標高1,150m）として発展してきたが、交通ルートやエネルギー需要の変化などで1970（昭45）年に住民の総意として集団移住を決定し村としての歴史を閉じた。
- 間もなく飯田市の上水道取入口付近の別荘地分譲を契機に大平宿の集落保存活動が始まり、全国からの支援者、利用者等が活用することによって集落全体が保存されてきている。
- 現在も市に寄付された建物や民有の建物を含め15軒ほどの家屋が当時に近い形で残されており、市有建物は生活原体験施設として生活原体験ができる。（株）南信州観光公社が指定管理者として管理）
- 「大平宿」を含む大平高原は、ハイキングでの利用や摺古木山、安平路山への登山口としても機能している。登山口からの標高差は約1,200mで、途中藪漕ぎがあるなど難易度が高く上級者向けである。

02 沢城湖

- 「沢城湖」は、温水ため池として築造（1964（昭39）年）された人工湖（堤長147m・堤高9m）で、湖を活かした釣りやボートなどのウォーターアクティビティや明るく開放的な湖畔・森の中でのキャンプの他、地形を活かしたハイキング、マウンテンバイク等の野外活動を楽しむことができる。
- 「沢城湖」を中心に、レストハウス、キャンプ場、公衆トイレ等が設置されている。（飯田高原保健休養地管理組合が指定管理者として管理）
- 高台にある展望台からは、南アルプス、伊那山地をバックに段丘上の市街地を見渡すことができる。
- コロナ禍以降、キャンプ場の新設や拡充、野外アクティビティを充実させた施設が増えており、従来型キャンプ場の当該施設は利用者が減ってきていている。

03 杣原学校

- 「杣原学校」は、1949（昭24）年に山本中学校として建築された木造校舎で、地元では村民の多大なる協力を得て建設が進められた手作りの学校であったと伝わる。1985（昭60）年に伊賀良中学校（現 旭ヶ丘中学校）との統合により廃校となる。
- 閉校後、木造校舎はしばらく手付かずの状態にあったが、2004（平16）年に地元自治会を中心に整備検討委員会を立上げ、杣原広場整備に関する提案を実施。
- 2005（平17）年に、全国の新制中学校校舎では初めてとなる国登録有形文化財に登録されている。（山本地域づくり委員会が指定管理者として管理）同年、「杣原学校応援団」が結成され、地域の子どもを集めての子ども教室や、大人のための座学などの講座、農業体験などの体験教育旅行の受け入れも行われ、地域内外の交流と学びの拠点としての活動が始まった。
- 近年は木造校舎前に成長する「大枝垂れ桜」を求め、特に春は多くの来訪者、カメラマンが訪れるとともに、映画やコマーシャルのロケ地ともなっており全国から多くの来訪者がある。

04 座光寺大門原

- 「座光寺大門原」は、座光寺地区の中で最上段部（標高約650m）にある高台で、南アルプス、伊那山地が見渡せる農地が広がっている。
- 地域の主要産業である「農業」を活かした地域活性化を目指し「パノラマファーム大門」を自治会組織内に立上げ（2014（平26）年）、耕作できなくなった農地の開拓、りんごやそばの栽培、渋谷区、奈良市青少年野外活動センター等の都市との交流事業に取り組まれている。
- 子どもが自然に親しむ、自然観察ができる渡り蝶の飛び交う「アサギマダラの里」づくりとして、蝶の食草であるフジバカマの植樹、管理活動の他、都市交流する渋谷区等で収穫したりんごで醸造したシードル「THE・COZY（ザ・コージー）」の製造、販売を展開している。

05 野底山森林公園

- 「野底山森林公園」は、市街地の北方の野底川流域（標高約650～900m）の地帯にアカマツ、スギ、ヒノキや広葉樹が混在する森林に囲まれた自然公園である。
- 春は桜やツツジが、夏は木々の新緑が、秋は鮮やかな紅葉など四季を通じて来訪者を楽しませている。（上郷地域まちづくり委員会が指定管理者として管理）
- 公園の奥にある野底山池の平にある池は、モリアオガエルの繁殖地として県天然記念物に指定されている。
- 園内には、旧中学校木造校舎を移築した姫宮林間学校をはじめ、キャンプ場、屋外炊事場、木工作業棟など、野外活動に利用できる施設が充実している。
- 野底川に設置された小水力発電所が稼働（2023（令5）年）を始め環境学習にも活かされている。
- 近年、飯田の食文化として注目される飯田焼肉と野外音楽イベントを組み合わせた「焼肉ロックフェス」の会場として市内外から多くの来場者が訪れるとともに、イベントを通して全国に発信されている。

06 風越山・猿庫の泉

- 「風越山（標高1535m）」は飯田市を象徴する市民の誰もが知っている山として「かざこしやま」と呼ばれ、信州百名山にも選定されている。
- 山頂直下には国重要文化財指定の「白山社奥宮」が鎮座し、白山権現を祀っていることから、「権現山（ごんげんやま）」とも呼ばれている。
- 道中では市街地、南アルプス、伊那山地等の山々の絶景が望めるビューポイント、展望台や水場があり疲れを癒すスポットがある。
- 「猿庫の泉」は、飯田市の北西にそびえる風越山山麓天竜川水系円悟沢に湧出する名水で、環境省名水百選に選定（1985（昭60）年）されている。
- 伝承によれば江戸時代後期、茶道宗偏流不藏龍溪が茶の湯にふさわしい水を求めて諸国を訪ねるなか、天竜川の水の旨さに惹かれ上流をたどって苦労の末に探し当てたとされ、5～10月までの毎日曜日は「猿庫の泉保存会」が主催する野点によるおもてなしが行われている。

飯田市

西部山麓観光エリア活用ビジョン

五感を研ぎ澄ます、体感の西部山麓

飯田市西部山麓地域は自然に恵まれ、古くから市民に親しまれてきました。

「温故知新」という言葉があるように、古き良きものを知ることで、新しい価値にも気づくことができます。

過去と未来が響き合うこの地には、時代を越えて受け継がれてきた魅力と、

これから可能性が共に息づいています。

地域の方々が長きにわたり守ってきた貴重な資源を、ぜひ五感を研ぎ澄まして体感してみてください。

きっと、ここでしか得られない体験が、

あなた自身の中にある新たな感性や気づきと出会わせてくれるでしょう。



全体ビジュヨン

豊かな自然をはじめ、絶景のパノラマ展望（アルプス、市街地など）の眺望を活かしながら、多様な資源を活用した地域主体による持続可能な「観光地域づくり」を推進します。

01 大平宿

- 手つかずの自然、山村の原風景の中で、宿場町当時の建物（家屋）での生活原体験の観光活用によって、当地域に実在した山村の自然や歴史文化、暮らしへの理解を深めます。
●引き続き、市民、所有者をはじめ、施設利用者や全国の支援者等と連携・協力して集落の保存継承につなげていきます。



ポイント
●江戸時代からの宿場町で往時を偲ぶ生活原体験。
●歴史ある建物や大自然の中で、五感を開放する癒しの空間。



02 沢城湖

- 湖のある高原、遊歩道を活用した憩いの場である。
●展望台からの眺望。



- かつての市民・別荘地住民を中心とした保養地、憩いの場であったように、西部山麓エリア唯一の湖、明るく開放的な湖畔を有効に活用したアクティビティが再び体験できるようにしてていきます。
●近隣の観光スポットである、カタクリの群生地「かたくりの里」、桜の花見スポット「佐倉さま（佐倉神社）」、観光農園、乗馬施設などと連携した周遊観光を促します。

03 杣原学校

- 登録有形文化財の木造校舎内での授業体験など様々な、体験活動が行われる場所。
●木造校舎と桜との調和。



- 山本地区が木造校舎の整備・活用として取りまとめた「再び学びの場として活用する」を第一とし、これまでの取組を継続してていきます。
●国登録有形文化財として、映画やコマーシャルのロケ地としての魅力を地域内外へ発信するとともに、さらなる活用方法を考えていきます。



飯田市



04 座光寺大門原

- 都市部との交流を継続していくとともに、農村で農業・文化・生活が楽しめる、体験ができる観光の仕組みをつくり推進します。



ポイント
果樹園の中から南アルプスのパノラマ展望を眺望できる、桃・梨・りんご・柿などを生産する果樹園地帯。

- このことにより、地域の主要な産業である「農業」が持続していく、優良な農地の遊休地化の進行の抑制につなげます。

05 野底山森林公園

ポイント
森林資源を活用した森林浴・自然景観を楽しみ、地域内外から集客するイベント・お祭りを通じて賑わう場所。



- 既存施設で学習活動、野外活動、体験活動に利用できるよう、適切な維持管理を継続していくとともに、健康・観光・教育等の様々な分野で森林空間を活用した体験プログラムや屋外イベントの場が提供できるように、個人から団体、野外イベントなどを幅広く受け入れられるようにしてていきます。

06 風越山

ポイント
ふるさとの山として市民に親しまれる山。

- 飯田市を象徴するふるさとの山として、いつでも、だれでも、日帰りで、思い思いに登ることができる「風越山」、「虚空藏山」として活用していきます。
●登山道等の維持・管理活動の輪を広げ継続していくことで、活動への参加者がやり甲斐を感じられ「風越山」への誇りと愛着を高めるとともに、登山イベント企画やマップの更新、情報発信などの活動が継続していくようにします。



猿庫の泉

ポイント
日本の名水百選の「猿庫の泉」を活かした地域内外の人々の交流の場所。

